

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

-----

共同利用・共同研究課題

「イスラーム聖者廟の財産管理に関する史料学的研究：イラン・サファヴィー朝祖廟を事例として」

平成 30 年度第 3 回研究会（2 日目）

日時：平成 31 年 2 月 10 日(日曜日)午前 11 時より午後 4 時 30 分

場所：AA 研セミナー室 3 0 1

参加者：近藤信彰，高松洋一（AA 研所員），阿部尚史，小野浩，後藤裕加子，杉山隆一，杉山雅樹，高木小苗，守川知子，渡部良子（AA 研共同研究員）

スケジュール：

11：00—12：30 ‘Abdi Beg 編 Sarih al-Milk データ化作業

11：00—11：30 渡部良子（東京大学）「報告：‘Abdi Beg 版 Sarih al-Milk データ化作業の課題」

11：30—12：30 討論

12：30—13：30 昼食

13：30—16：00 サファヴィー朝期 Sarih al-Milk 2 作品（‘Abdi Beg 版，Sipahani 版）の研究

16：00—16：30 打ち合わせ・第 2 年次の計画

**研究会報告：**

「イスラーム聖者廟の財産管理に関する史料学的研究」第 1 年次第 3 回研究会は、初年度の成果報告としての公開研究会（2 月 9 日（土）開催，報告書参照）と，2 日目の 1 年間の共同研究作業をまとめ，第 2 年次の研究計画を話し合う作業会として行われた。

最初に，渡部良子（東京大学非常勤講師・AA 研共同研究員）から，この 1 年間共同で進めてきた，イラン北西部アルダビール・サファヴィー教団（16—18 世紀にイランを支配したシーア派政権サファヴィー朝の起源）の聖者廟サフィー廟の寄進地記録 ‘Abdi Beg 編 Sarih al-Milk のデータベース化作業の現状について，報告が行われた。共同研究員メンバーの分

担で、 Sarih al-Milk に登録された 16 世紀時点でのサフィー廟帰属の寄進地・占有地とその関連情報は Excel データとしてほぼ入力終了したが、このデータを聖者廟の財産管理とそれに関わるイスラーム法制度、法文書システム、行財政制度に関する歴史情報を有効に、多面的に検索可能にするデータベースとして整備するにはどのような問題・課題があるか、各担当者からの報告を交えた討論が行われた。

次いで、第 2 年次以降の研究課題として、サファヴィー朝期 Sarih al-Milk の研究をどのように深化させてゆくか、'Abdi Beg 編 Sarih al-Milk の中でも最も古い、教団名祖シャイフ・サフィーの寄進に関わる記録（アルダビール郡部アルギル村）を題材に議論が行われた。シャイフ・サフィーが行ったアルギル村を含む大規模な寄進の文書（ワクフ文書）は現存しておらず、編者アブディー・ベクは、サファヴィー教団と深い関わりを持つカークリー家のカーディー（法官）がシャイフ・サフィー没後に作成した法文書、およびシャイフ・サフィーの子・後継者である第 2 代教主サドルッディーン・ムーサーが作成したサフィーの 4 子のワクフ収益分配規定書などの廟保管文書を利用し廟の最古の寄進地を再構成している。寄進地の帰属の正当性を特定するためいくつもの証明の手続きが踏まれており、聖者廟の寄進地の数世紀に亘る保持がワクフ文書作成・保管に留まらない様々な手段を取ったことが示されている。アブディー・ベク編 Sarih al-Milk が 16 世紀のサファヴィー朝確立期に王朝祖廟寄進地の法的根拠をいかにして編纂しようとしたのか、よりテキストに即した分析が必要であることが確認された。

以上の報告・討論を通し、2019 年第 2 年次は、引き続きアブディー・ベク編 Sarih al-Milk のデータベース化作業を進めつつ、共同研究員各自が自身の専門に基づき Sarih al-Milk のテキスト分析を進め、聖者廟の寄進地獲得・保持・管理に関わるシステムがどのように寄進地記録史料に反映されているか、他の文書・帳簿史料も用いて研究し、報告していくという方針が定められた。

時間は限られていたが、本年はサフィー廟の財産管理に関する最重要史料アブディー・ベク版 Sarih al-Milk の基礎的研究を進め、聖者廟財産管理をめぐる社会・文化・制度の研究に繋げる準備を整えることで、第 1 年次を締めくくることができた。（文責：渡部 良子）